

令和5年度 奈良県総合医療センター

医療事故・ヒヤリハット 分類別 合計発生件数（転倒・転落を除く）

事故の分類	合計(件)	構成比(%)
薬剤	1,392	34.9%
輸血	66	1.7%
治療・処置	229	5.7%
医療機器	315	7.9%
ドレーン、チューブ	548	13.7%
検査	583	14.6%
療養上の世話(転倒転落以外)	445	11.1%
その他	415	10.4%
合計	3,993	100.0%

医療事故・ヒヤリハット レベル別 合計発生件数（転倒・転落を除く）

レベル分類	合計(件)	構成比(%)
0	767	19.2%
1	1,363	34.1%
2	1,177	29.5%
3a	558	14.0%
3b	91	2.3%
4	9	0.2%
5	28	0.7%
合計	3,993	100.0%

(参考)医療事故等の分類(転倒・転落を除く)

レベル	傷害の継続性	傷害の程度	傷害の内容と基準
0	-	-	エラー・不具合に気づき、患者には実施されなかった
1	なし	-	エラー・不具合に気づかず実施したが、患者への実害はなかった
2	一過性	軽度	行った医療または管理により、患者に影響を与えたが、処置や治療を要しなかった
3a	一過性	中等度	行った医療または管理により、本来必要でなかった簡単な処置や治療(消毒、湿布、鎮痛剤投与等の軽微なもの)を要した
3b	一過性	高度	行った医療または管理により、本来必要でなかった濃厚な処置や治療を要した
4	永続的	軽度 ～ 高度	行った医療または管理により、永続的障害が残った 障害が軽度から中等度の場合は4a 障害が中等度から高度の場合は4b
5	死亡	-	行った医療または管理により、死亡

令和5年度 奈良県総合医療センター

医療事故等（転倒・転落）レベル別 合計発生件数

レベル分類	合計(件)	構成比(%)	R4年度(件)	R5-R4(件)
A	306	67.7%	250	56
B	119	26.3%	87	32
C	7	1.5%	10	▲ 3
D	20	4.4%	10	10
E	0	0.0%	0	0
F	0	0.0%	0	0
合計	452	100.0%	357	95

(参考)医療事故等の分類(転倒・転落を除く)

レベル	傷害の程度	傷害の内容と基準
A	なし	患者に損傷はなかった
B	軽度	包帯、冷湿布、創傷洗浄、四肢の挙上、局所薬が必要となった、あざ・擦り傷を招いた
C	中軽度	皮膚接合テープ・皮膚接着剤、縫合、副子が必要となった、または筋肉・関節の挫傷を招いた
D	重度	骨折をきたして、ギプス、牽引、手術が必要となった、または神経損傷・身体内部の損傷のため治療が必要となった
E	死亡	転倒による損傷の結果、患者が死亡した
F	不明	記録からは判定不可能

医療事故レベル 5 の概要

直腸癌の再発に対しロボット支援下腹会陰式直腸切断術を行ったが、術後 5 日目に嘔吐による窒息をきたした。急変時にパルスオキシメーターを装着していたが、そのアラーム音にスタッフは気づかず対応が遅れ、その後死亡に至った。

医療事故対策委員会を開催し、院内の多職種において臨床経過を検証・分析して原因究明に努め、同様事例の再発防止案を検討した。

再発防止案として、アラームに即座に対応し確実に管理できるように、①常時状態把握が必要な患者にはセントラルモニタを装着することを院内ルールとした。②各診療科ごとにモニタ担当医を設置し、病棟看護師と相談の上、不必要なモニタ装着を減らすため、管理可能なモニタ数の把握とモニタ装着優先度の高い患者の決定を行うこととした。